



動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
FAX 043(224)7197 番

2000.11.22 No. 5228

組織強化・拡大を全力でかちろう！

支部定期大会を成功させよう

本日二二日の幕張支部定期大会を皮切りに、各支部定期大会、分科会（乗務員分科会はすでに開催）定期委員会が予定されている。さらに動労総連合定期大会も十二月三日、四日に開催される。今年の支部大会は例年にもまして重要な位置をもっている。なによりも分割・民営化体制の総破綻ともいべき情勢が到来するなかで、たたかえば勝てるということが鮮明になってきたことである。こうした情勢をしっかりと確認し、全組合員の結集と討論で支部大会の成功をかちとるとともに、組織強化拡大へ総決起の体制をうちたてよう。

一〇四七名闘争の勝利をかちとろう

国鉄闘争をめぐる情勢の特徴の第一は、一〇四七名闘争の正念場の到来と勝利の突破口が切り開かれたことである。国労の臨大、定期大会での三度にわたる「四党合意」受け入れ拒否は、この数年来国労の底流に流れていた国労の連合化と闘争団切り捨て策動を、闘争団・家族をはじめ、国鉄闘争を支援しつづけてきた労働組合などの力で粉碎すると

いう大きな勝利をかちとつた。そして闘争団が「三度目の首切りは許せない」と、明確に一〇四七名闘争の主体として闘いに決起していることの意味が決定的なものとなっている。この中に国鉄闘争の勝利の核心がふくまれている。

情勢の特徴の第二は、JR総連・革マルの組織崩壊の始まりということである。JR総連九州労は十月半ばで組織の八割が脱退を表明し、事実上の壊滅状態となった。しかもこれは会社の切り崩しが原因ではなく、革マルの自己崩壊、内部崩壊として起こっている。これは九州労だけの問題ではなく、JR総連の中軸である東労組こそ、その震源地だということだ。事実十一月に入り、JR総連OB（東労組・革マル）の革マルによる拉致・監禁事件が発生している。これは結託体制がいよいよ崩壊過程に突入したことをしめしている。

JR総連解体闘争を軸に職場から総決起をかちとることが決定的になっている。

「シニア制度」、検修・構内外注化阻止に起とう

支部大会の課題は、「シニア制度」―検修・構内外注化

反対闘争に全力で立ちあがることである。「シニア制度」による六十才退職強要と劣悪な労働条件による選別・「再雇用」は長年鉄道で働き続けた労働者に対するものとしては、あまりに酷い内容である。しかも検修や設備などいわば業務まるごとの外注化というやり方は、今後のJRという鉄道会社の在り方を根底から再編し、運転保安や技術力の維持・継承を打ち砕く性質をもっていることだ。しかもこれは検修・設備だけでは済まない内容をもっている。外注化阻止の闘いに全力で決起しよう。「シニア制度」との闘いを決断した三名の仲間を全力で支えぬよう。

さらに支部大会で、組織強化・拡大に全組合員が総決起することを確認しよう。先に述べたようにJR総連の危機は頂点に達しようとしている。結託体制のあまりの腐敗ぶりに、青年労働者のなかにJR総連への組織不信は日々拡大している。いまこそJR総連解体・組織拡大に全組合員が本気になって立ちあがろう。

各支部大会を動労千葉の新たなステップをかちとる場としてかちとろう。

米軍実弾演習弾効！11・12北富士現地闘争に決起



十一月二日から全国各地の基地・演習場で日米共同統合演習が、また同四日から北富士演習場では米軍実弾演習が強行された。反戦共同行動委員会は、北富士忍草母の会と連携して、十二日現地集会・デモを貫徹した。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう！